

## 習志野市市民協働推進委員会【第1回】議事録

1 開催日時 令和3年5月31日(月)午前10時から11時30分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-1会議室

3 出席者

【委員】 公募委員 齊藤 恵子

認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 牧野 昌子

特定非営利活動法人 ならしの子ども劇場 高岡 明美

特定非営利活動法人 じょいんと 松井 秀明

習志野市連合町会連絡協議会 林 孝治

習志野商工会議所 山野井 武

習志野市社会福祉協議会 野村 浩一

習志野市 こども部 子育て支援課 相澤 慶一

習志野市 生涯学習部 社会教育課 藤原 友哉

【事務局】 協働経済部

部長 片岡利江

次長 江川 幸成

協働経済部 協働政策課 課長 大竹 博和

係長 柴野 タ子

副主査 佐々木 康太

4 会議内容

第1 委員長の選出

第2 副委員長の選出

第3 会議録の作成等

第4 会議録署名委員の指名

第5 報告(1)市民活動団体支援等の施策概要について

(2)習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領の改正について

(3)習志野市市民参加型補助金制度について

第6 その他(事務連絡等)

5 会議資料 習志野市市民協働推進委員会【第1回】に関する資料

※別添資料

次第

資料1 令和3年度 市民活動団体支援等の施策概要

資料2 習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領 新旧対照表

資料3-1 令和2年度 市民参加型補助金一次審査通過事業一覧

資料3-2 習志野市市民参加型補助金制度令和3年度募集要項

資料3-3 令和3年度 習志野市市民参加型補助金 補助金審査委員会、  
公開プレゼンテーションスケジュール(案)

資料3-4 二次審査方法

資料3-5 市民参加型補助金 二次審査採点票

習志野市市民協働推進委員会名簿

参考資料1 習志野市市民協働推進委員会と習志野市市民参加型補助金  
審査委員会

習志野市市民協働推進委員会設置要綱

習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領

参考資料2 習志野市市民協働に関する取り組みの概要

参考資料3 令和3年度会議開催等予定

## 6 会議内容

### 第1 委員長の選出

指名推薦(互選の方法)により、牧野委員が委員長に決する。

### 第2 副委員長の選出

委員長一任(互選の方法)により、松井委員が副委員長に決する。

### 第3 会議録の作成等

要点筆記とする。

### 第4 会議録署名委員の指名

齊藤委員、高岡委員

### 第5 報告(1) 市民活動団体支援等の施策概要について

【牧野委員長】令和元年度ボランティア補償制度の支払総額100万円超の理由を伺いたい。

【協働政策課 柴野】後遺障害を伴う事故があったため、後遺障害の支払額も含めこのような金額となった。

【牧野委員長】オンライン交流会の内容を伺いたい。

【協働政策課 柴野】これまで市民活動団体の活動紹介は、掲示・ワークショップ形式が多かったが、Zoomを活用したオンライン交流会を開催し、事前に作成したPR動画やコロナ禍での新しい市民活動の事例を、市民活動を始めてみたいという方や団体へ紹介したいと考えている。

【牧野委員長】高岡委員は新しいアフターコロナに対しての活動について御意見はないか。

【高岡委員】子育て世代はインターネットに慣れているため、当団体でも、常にSNSを活用している。イベントの申し込みは電話申込からメールに変わってきており、インターネットの活用は今後ますます重要ではないかと思う。

【牧野委員長】スマートフォンを活用した高齢者へのICT利活用については、ノウハウをお持ち

のキャリア企業が講師となり行えることは素晴らしいと思う。当団体が受託運営している四街道をみんなで地域づくりセンターにおいて昨年、市民を講師にスマホ・タブレット講座を実施したが非常に苦勞した。習志野市では昨年もZoom講座にたくさんの方が参加されている。リアルでの会議や打ち合わせも大事だが、オンラインのスキルアップはコロナ収束後も必要だと思う。

林委員、昨年は連合町会、町会・自治会活動はいかがであったか。

【林委員】お祭りなどの不特定多数の方が参加する行事はすべて中止、3分の2の事業は中止となった。防災訓練等は重要であるので、代表者30人程度で開催した。今年ではできる活動は行う方向で準備を進めている。

【牧野委員長】山野井委員はいかがか。

【山野井委員】商工会議所ではイベントが無くなった分すべて給付金等の相談に代わっていく状況であった。中高齢者の会員は給付金などのオンライン申請が難しいとのことから、中高齢者会員に対するオンライン対応支援が必要と考えている。

【牧野委員長】社会福祉協議会の活動は、困窮者の支援など下支えの部分でご苦勞があったと思うがいかがか。

【野村委員】コロナの影響で会議やイベントが縮小されるなか、市の基準に則り可能な範囲で事業を実施している。社会福祉協議会のほとんどの支部事務所に6月中にWi-Fiを導入予定。各支部にも導入することで各支部とより充実繋がりを図るために進めている。また、県内の社会福祉協議会で行われる会議などはZoomで開催している。Zoom会議は大人数では難しい面があるが、少数であれば非常に有効と感じている。

今後は、高齢者をはじめ、いろいろな団体や個人への支援、環境づくりが必要と考える。

困窮世帯への貸付については金額、人数ともに非常に多い状況。オンラインツールを使えない方は、対面式での対応が多い状況である。一刻も早く貸付を行えるよう職員は感染対策をしながら申請受付をしており、終わりが見えない状況で非常に疲れている。

【牧野委員長】

貸付件数が多いということは返還償還の業務も大変になるということ。相談件数も平常時の130数倍と聞いている。

#### 第5 報告(2) 習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領の改正について 質疑無し

#### 第5 報告(3) 習志野市市民参加型補助金制度について

【牧野委員長】市民参加型補助金の審査を経験している委員は流れを把握していると思うが、新たに委員となられた方、何かご質問はあるか。齊藤委員はいかがか。

【齊藤委員】どのように評価すればよいのか、手探り状態。資料を基に自分なりに考えていきたいと思っている。

【牧野委員長】資料にあるとおり、委員の皆さんには9月11日(土)の二次審査と次年度4月16日(土)の実績報告会は予定いただきたい。

高岡委員の団体は補助金制度を活用されたことがあると思うが、何か御意見、御質問はあるか。

【高岡委員】事業を計画し実施するというのは大変なことと感じた。皆さんが熱意をもって計画を立てられた事業をしっかりと内容、説明を聞いて自分の判断ができるようにしたいと考えている。

【牧野委員長】松井委員はいかがか。

【松井委員】プレゼンテーションが上手な団体、苦手であっても事業内容がよい団体もある。判断は難しいが、意見交換会後に、採点の見直しは可能である。

【牧野委員長】審査する側は資料を読み込んで疑問点等を、プレゼンテーション後の質疑を通して解消する形となる。今回申請対象となる11団体には、新しい団体もいる。新しい団体にとっては大きな挑戦。駄目出しをしていくという考え方ではなく、団体の考えをきちんと読み取り審査をする必要がある。採択にならなかったとしても申請してよかった、様々な意見をいただけてよかったと、団体の成長につながる審査会でありたいと思っている。今回対象の11団体が事業を練り直し、感染症対策をしっかりと書き込んで申請いただくことを期待する。

## 習志野市市民協働推進委員会【第2回】議事録

1 開催日時 令和3年10月22日(金)午前10時から11時

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-2会議室

3 出席者

【委員】 公募委員 齊藤 恵子

認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 牧野 昌子

千葉工業大学 田島 則行

特定非営利活動法人 ならしの子ども劇場 高岡 明美

特定非営利活動法人 じょいんと 松井 秀明

習志野商工会議所 山野井 武

社会福祉法人 習志野市社会福祉協議会 野村 浩一

習志野市 こども部 子育て支援課 相澤 慶一

習志野市 生涯学習部 社会教育課 藤原 友哉

【事務局】 協働経済部 部長 片岡 利江

次長 江川 幸成

協働経済部 協働政策課 課長 大竹 博和

係長 柴野 タ子

副主査 佐々木 康太

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 報告(1) 令和2年度市民活動団体支援等の施策について(実施報告)

(2) 令和4年度習志野市市民参加型補助金制度について

第4 その他(事務連絡等)

5 会議資料 習志野市市民協働推進委員会【第2回】に関する資料

※別添資料

次第

資料1 令和2年度 市民活動団体支援等の施策について(実施報告)

参考資料1 令和3年度 市民活動スキルアップ講座・市民協働型委託事業

資料2 習志野市市民参加型補助金制度 令和4年度募集要項 概要

参考資料2 習志野市市民参加型補助金制度 令和4年度募集要項(案)Ver1

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

## 第2 会議録署名委員の指名

松井委員、山野井委員

## 第3 報告(1) 令和2年度市民活動団体支援等の施策について(実施報告)

### 【牧野委員長】

オンラインによる開催でも定員を超える参加があった市民活動スキルアップ講座の参加者の年齢層を伺いたい。

### 【協働政策課 柴野】

60代から70代を中心に80代の参加もあった。また、自宅から参加できるオンライン開催ということもあり、子育て中の30代、40代の参加もあった。

### 【牧野委員長】

オンラインは弱点もあるが、これまで会わなかった方とお会いできる、参加いただけるという強みもある。

### 【田島委員】

当研究室は袖ヶ浦団地の再生に携わっている。昨年、大学で貸し出している iPad を使って、団地の高齢者に Zoom によるコミュニケーションを体験いただいた。

コロナ禍において、オンラインコミュニケーションが急速に普及し、現役世代にとっては普通のことになり、初めてお会いする方には対面でのご挨拶が常識であったが、最近では Zoom による初対面の挨拶が常識になりつつある。また、海外渡航制限の状況下で、国際学会も Zoom による開催が常識となり、私も自分の研修室から国際学会に参加している。妙な感じだが、オンラインによる講座開催は非常によい取り組みで、高齢者・ハンディキャップをお持ちの方も参加しやすい、オンラインによる講座開催はよい取り組みで、このような取り組みが市民協働にとって必要なツールではないか。一方では、新型コロナウイルス感染防止、市民の安全のためとはいえ、中止した事業が多かった。大学では学生の教育が滞ってはいけないという発想から文部科学省の方針に基づき、オンライン授業と対面授業にも対応。昨年は、前期はオンラインが中心であったが後期は対面による授業実施し、メディアにとりあげられた。今年是对策を講じながら前期後期ともにほとんど対面で授業を行い、クラスターの発生もなく進んでいる。市役所の役目として市民の安全を守るために、感染対策のために中止にするというのは、ある側面で正しい判断だが、市民活動の停滞が長引かないように対策を講じながら、実行していくことも必要ではないか。

### 【牧野委員長】

市民活動団体の多くは、検討の結果、活動や事業を中止。習志野市でも、ほとんど中止となったのか。

### 【大竹協働政策課】

令和2年度は新型コロナウイルスの初期段階で、市としても対応に苦慮した。行事等については、市の新型コロナウイルス感染症対策本部の方針に基づき、各担当課等が判断。令和2年度は初めて緊急事態宣言が発令されたなかで動きがとれず、多くの行事等が中止となった。令和3年度

は昨年度の経験を生かし、対策を講じたなかで模索しながら事業を進めている。

【田島委員】

今後は、コロナとどのよう共存していくかという方向に世論も動いていくと思う。情報ツールの格差によって市民活動に参加できない人を支援するか等、創意工夫を凝らした先進的な取り組みを考えていただきたい。

【野村委員】

社会福祉協議会では人数制限等に配慮して可能な範囲内で会議を行った。人が集まり、飲食を伴うイベントについては県や市の方針により中止とした。支援については、職員が出向いて市民と接することから必要最低限の範囲で実施した。貸付業務については、県等の方針は書面やメール等での対応であったが、現場の職員の意向により対策を講じたなかで、対面で実施している。

【牧野委員長】

社会福祉協議会は、さらに業務量が増え、大変な時期が続くと認識している。

ここまでは令和2年度の報告であったが、高齢者スマホ教室をはじめ、令和3年度実施予定事業について教えていただきたい。

【協働政策課 柴野】

参考資料1に記載の高齢者スマホ教室については、全24回を予定している。資料に記載はないが、1月以降も6回を予定している。反響の大きい講座で、申し込み開始日に定員に達する状況である。協働政策課では、市民活動団体 PR 動画作成講座を実施。2回講座の1回目は動画の作り方、2回目は動画編集アプリの使い方を市民協働推進系の職員が講師を務めた。講座終了後も団体の依頼があれば動画編集作業の支援を行っており、動画の完成まで支援を継続する。

本講座の集大成として、市民活動に興味のある方と団体が繋がるきっかけづくりの場である、クリスマスオンライン交流会の開催を予定している。市民活動の紹介や紙芝居や折り紙など団体に実際に披露いただく内容を企画している。

【牧野委員長】

オンラインツールが使えるようになって、使わないと忘れてしまう。オンライン交流会のようにオンラインツールを継続して活用していく機会があるとよいと思う。

### 第3 報告(2) 令和4年度習志野市市民参加型補助金制度について

【牧野委員長】

募集要項をより詳しくわかりやすく、記載をするということまで理解した。IC カードの利用明細はどのように発行するのか教えていただきたい。

【協働政策課 柴野】

事前登録済のアプリまたは駅の発券機で確認いただける。発券機では20件の履歴が印字されることから、ある程度まとめて発行可能である。

【高岡委員】

当団体でも補助金制度を活用したことがある。事前相談で指摘などをいただけるのは、申請者にとってもありがたいことだと思う。

【松井委員】

活動における人数制限やイベントの開催は、感染状況によって、臨機応変に対応していくことになるのか。

【片岡協働経済部長】

申請時期の状況、事業実施時期の状況は見通せないことから、この1・2年のことを踏まえて事業を提案していただきたいと考えている。また、事業実施にあたっては、感染状況の悪化により県や市が制限をかけた場合は従っていただくことになる。市としては、感染状況等を踏まえ、臨機応変に対応、情報等の共有をしながら、申請団体の皆様と一緒に考えていきたい。

【牧野委員長】

事業計画書に感染症等予防対策を記載する必要がある。申請団体は、県や市の制限に対応しつつ、実施方法を検討しなければならない。

【田島委員】

わかもの活力型に申請できる学生というのは、学生だけのサークルか、任意の学生の集まりなのか、研究室で活動している学生なのか、どの範囲の学生が対象なのか。

研究室が何かをする場合、市民活動団体に入らなければ申請することができないのか。

習志野市には大学が3つあり、学生が沢山いる。大学自体は市民ではないが、市にあるというなかで、研究室単位で何かをしたいという場合は、市民活動に含めてよいのか。

【協働政策課 柴野】

対象団体の考え方は正会員5人以上で構成されている団体であって、正会員の半数以上が学生であることとなっている。研究室のメンバーを主体とした学生団体も多く活用しているが、提出書類に規約、名簿が必要になるため申請を考えられた際には規約と名簿を作成し団体を立ち上げている。

【田島委員】

研究室という主体は市民活動団体として認められるのか。

【大竹協働政策課長】

特定の範囲の中で行われる活動、同窓会、親睦会や研究室も含まれる形になる。これらは市民活動団体には含まれないが、活動内容を公益的な活動に広げることで、市民活動団体に発展するという部分を考えると、本事業の対象である市民活動団体に含まれる可能性はあると考えている。

【田島委員】

大学の研究室というのは研究を推進する場所で、国・県・市や公共団体の研究助成金をもらい研究をしている。昨今、大学の研究内容に市民活動と地域貢献を行うということが研究の対象になっている。習志野市にある3大学にも複数の研究室がそのような研究をしていると思う。

今後の課題として、大学の研究室も含めた、大学・市民・市が繋がるような制度もあれば有効であると思う。

【齊藤委員】

多くの方が参加したい気持ちは持っていると思うので、多様な活動が行われるとよいと思っている。私自身も興味を持ったものに参加したいと思う。

【山野井委員】

商工会議所として、大学の研究室などのニーズ等を情報提供してもらえると、産学官連携などで



繋がることのできる可能性もあると感じた。

#### 第4 その他(事務連絡等)

なし